

DXデビューしませんか？

～県内企業のDX事例の紹介～

ふくいDXオープンラボは、DX技術の導入支援や人材育成を支援しています。
ここではDXラボを活用した県内企業のDX導入事例を紹介します。

「働きやすい環境」づくりを目指して DX推進

靴のインターネット通販事業を手掛ける株式会社ザカモア。人が手動で行う作業を正確・高速に自動で処理するRPA (Robotic Process Automation) を導入し、大幅な業務の効率化を図っています。システムの導入にあたっては、作業の無駄、不必要な工程の洗い出しがまず必要で、デジタルツールの活用を契機に業務



の見直しも進みました。「働きやすい環境」の実現を掲げ、社員がいきいきと働くためのDXを推進しています。

RPA導入で社員の心身の負担軽減

同社が最初に目を付けたのは商品の発注作業。日々行われているFAXでの発注作業を省力化できないかがスタートでした。同社がRPAを導入した時は、まだ一般的なツールとは言えず、初期費用で約50万円と毎月の使用料が必要でした。西村社長は、「パート一人を雇うぐらいの気持ち」で思い切ったそうですが、今では無料で使えるRPAツール「UiPath」を活用しています。今ではシステム間の在庫調整や、楽天・Amazonなど各モールで登録した新商品データのシステムへの



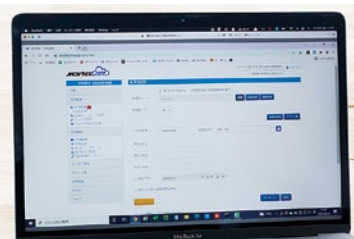
RPA活用前と活用後で発注作業にかかる時間、金額ともに大きな変化が。

移し替え、商品の入荷予定に合わせたバーコード発行などの様々な業務をRPAがこなしています。作業を担当していた社員からは、「自動化できた作業の中には、終業間際で40分ほどかかる作業もあり、精神的な負担も減って非常に助かっている」と好評です。

「どこでも働ける環境」づくりも目指す

同社がRPA導入と同時に取り組んだのがリモートワークの推進です。「会社に来ないと仕事ができないのではなく、どこにいても働ける環境をつくりたい」と、業務フローの洗い出しを進め、FAXのリモート化やホワイトボードアプリ「miro」を活用した社内会議のオンライン化などを実施しました。「やってもやらなくても良い仕事はやめる」と表現するように次々と無駄をそぎ落とすとともに、働く場所・時間・休みを自分で決める制度を構築しました。その結果、社員主体の働き方を実現でき、移住を機に退職せざるを得なかった社員が退職することなく働き続けることにも繋がったそうです。

「育ててきた優秀な人材を手放したくない。これを機会に「どこにいても働ける」事例をつくり、社員にとって働きやすい環境を整える。このためにもデジタル化は大きな力になる」と、西村社長は思いを強くします。



FAXのリモート化に「Movfax」を導入。RPAと連動させ、FAX送信も自動化させた。

会社概要

株式会社ザカモア
[靴のインターネット通販]

坂井市春江町藤鷲塚40-35-2
代表者: 代表取締役 西村 拓朗 氏
URL <https://www.zacamore.co.jp/>



お問い合わせ先

(公財) ふくい産業支援センター DX推進チーム
TEL: 0776-67-7416 FAX: 0776-67-7439 E-mail: dx-t@fisc.jp